



Activities Therapy

By Anne Cronin Mosey

Activities therapy という、狭義では精神病院内の管理上の組織単位（いわゆる「療法部」という形）であり、広義では治療の一方法を意味している。本書は、後者の意味の AT についてである。即ち、AT は、心理-社会的機能を促進するために、仕事的・レクの、創造的表現による活動を使うことである。この本では、作業療法、音楽療法、絵画療法等を含めている。

この本は、これから精神科で働く見込みの学生、AT 分野で仕事を始めた初心者を対象に書かれている。説明がわかり易く、具体的になされている。

AT を支えている基本的な考えはいくつかあるが、その一つは therapeutic community の概念から来ている。患者職員共メンバーとして参加し、日常的やりとりを交わす際に出てくる問題を通して、患者は社会に出て生活する上に必要な技術を習得する。他の一つの基本的

な考えは、集団力動を通して個人は自分自身を健康的な方向へと変え得る、という事。更に、AT は、実際に何かをしてみて、経験を通して自分自身と他人の欲求をより満足のいく方法で満たすことである、と。

以上の基本的考えをもとに、この本では、人間のもっている面（基本的能力、the private self, the public self）、学習過程、集団力動、治療施設、治療過程、評価の問題等をかなり具体的に扱っている。

入門的な本ではあるが、実際にこの分野で仕事をしてきている人にとっては、自分のしてきたことを整理する上に、一つの参考として、役に立つ様に思える（元にある基本的考えの違いはあっても）。

(Raven Press, Publishers, 1973)

(国立武蔵療養所、作業療法士 小平憲子)

The Diabetic Foot

Edited by

Marvin E. Levin, et al.

私共の連日の理学療法業務の中で糖尿病を疾病にもつ患者は特に Risk 的管理を課せられるものである。神経内科的あるいは整形外科的な診療科から、理学療法の諸々の処方提出され、そこで施行するべく糖尿病に対する知識は何となく私共はもっていると思う。

それは理学療法を処方するに当って、“糖尿病”に対する理学療法の目的ではないからで、ややもすると漠然とした知識で事足りる（……Risk care 程度）ものである。

私共、理学療法士が十分な糖尿病についての知識と理解をもつのは、時間を要するものである。

というのは、私自身、この病気を知らうとあちこちの本を判読しても、今になっても、理解出来ないのは残念である。いっその事、局限したところの専門書で、しかも糖尿病のもつ運動機能障害に関する精書をと、探り当てたのがこの The Diabetic Foot である。しかし読んでいてもなかなか、理解に困難であったが、ある内科医より“糖尿病の患者で足部に障害をもち、歩行に困難で

ある由、理学療法士のコメントを提出してほしい”との事であった。

そこで、この本より得た糖尿病のいわゆる足の性質をあらゆる方面より思い浮かべ、数例の患者に役立ったことである。理学療法士の方もこの The Diabetic Foot を一読され、明日の診療に新たに役立ててほしいと思う。

(CONTENTS)

1. Medical evaluation and treatment.
2. Neuropathy and the diabetic foot.
3. Vascular disease.
4. Bacteriology and the diabetic foot.
5. Surgical pathology of the foot and clinicopathologic correlation.
6. Roentgenography of the diabetic foot.
7. Peripheral arterial surgery in the diabetic.
8. Debridement and amputations.
9. Rehabilitation and of the diabetic amputee.
10. Podiatry.

(The C. V. Mosby Company, 1973)

(北里大学病院、理学療法士 松瀬多計久)